

## 山雨まさに至らんとして、風楼に満つ

富山県農村医学研究会会長 豊田 文一

「山雨まさに至らんとして、風楼に満つ」この言葉が、昭和8年相原言三郎氏（香川県立農事講習所長）著の『自力による農村更生の道』の巻頭に書かれている。この意味は雨を含んだ黒雲が山の彼方にムラムラと湧き出た。大雨がまさに襲わんとしている。何となく陰うつな暗たんたる風景が、私どもの眼前に彷彿としている感があるということである。

私は先日古本店の店頭で、この『農村更生の道』に興味をひかれ買い求めた。何故このようなことが昭和8年に書かれたか。その頃の農村経済について判らなかつたので、当時

の米価について文献をあさってみた。その一つ、いろいろな物品の値段の移り変わりを記載した。『値段の風俗史』をみると、昭和8年頃に米価は暴落している。表1がそれである。

（東京における標準価格、米10キロ当りの小売価格）。この頃は食管会計もなかつたので、生産者価格もこれに近かつたのであろう。著者の言によれば、農村経営の行きづまり、農家生活の破綻と不安、動揺、焦燥、煩悶など、その極に達していた。

ひるがえってここ数年円高ドル安で、日本の貿易摩擦は危機をはらんでいる。先般トラ

表1 幕末から昭和55年までの米価

白米																	
昭和十年	昭和八年	昭和五年	大正十五年	大正十一年	大正八年	大正五年	大正一年	明治四十年	明治三十五年	明治三十年	明治二十五年	明治二十年	明治十五年	明治十年	明治五年	明治一年	幕末
二円五十銭	一元九十銭	二円三十銭	三円二十銭	三円四銭	三円八十六銭	一元二十銭	一元七十八銭	一元五十六銭	一元十九銭	一元十二銭	六十七銭	四十六銭	八十二銭	五十一銭	三十六銭	五十五銭	五円五十二銭
昭和五十五年 (五月)	昭和五十二年 (九月)	昭和五十一年 (九月)	昭和五十年 (九月)	昭和四十九年 (十月)	昭和四十七年 (十月)	昭和四十四年 (十月)	昭和四十年 (十月)	昭和三十五年 (十月)	昭和三十年 (十月)	昭和二十八年 (十月)	昭和二十五年 (七月)	昭和二十二年 (七月)	昭和二十一年 (七月)	昭和二十年 (七月)	昭和十九年 (七月)	昭和十四年 (七月)	昭和十四年 (七月)
三千二百二十五円	三千元	二千七百四十円	二千四百九十五円	二千二百円	千六百円	千五百二十円	千二百二十五円	八百七十円	八百四十五円	六百八十円	四百四十五円	四百九十五円	九十九円七十銭	三十六円三十五銭	十九円五十銭	六円	三円二十五銭

〔注〕東京における標準価格米10キログラム当りの小売価格。資料提供=食糧庁。『値段の風俗史』より

表2 最近の消費者米価と生産者米価

年度	消費者米価	生産者米価
56	3,275円	17,756円(60kg) ⇨ 2,959円(10kg)
57	3,482円	17,951円
58	3,482円	18,266円
59	3,628円	18,668円
60	3,764円	18,668円
61	3,867円	18,668円

図1 明治から戦前までの米価の推移

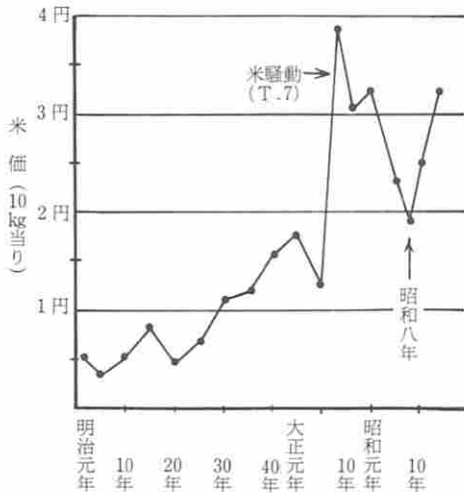
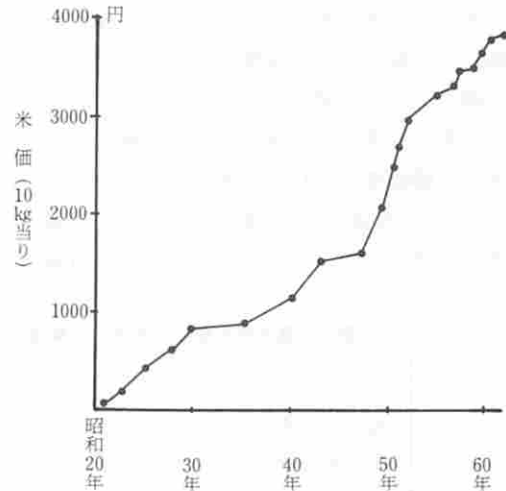


図2 戦後の消費者米価の推移



ック島に旅行し、現地でみた米価は日本の1/6~1/10である。かつてコロラド、カルフォルニア州でみた米作地は、大型機械を駆使し、はてしない広大な耕地で大量の生産をしているを眼のあたりでみた。しかも米作地帯といわれる富山県農村も前年度は豊作、今年度も同様であろう。しかし、ここ3年間は生産者米価は据えおかれている。

物価の上昇に見合わないような思いがする。

私どもは農村の健康管理に取り組んでいるが、農産物の豊作は、農村の生活基盤に少なくない影響をもたらすだろう。ことに暫時集約農

業に転じつつあるようである。昭和60年専業農家僅かに3.7%、兼業農家96.3%、このうち第1種兼業5.9%、第2種兼業90.4%となっている。周知の如く、米作面積は縮小、制限され、転作の止むなきに至っている。この転作による農業労働は、新しい健康障害を惹起し、私どもは屢々これを耳にする。すなわち身体姿勢を中心とする新しい問題に取り組み、それに対する予防、あるいは健康障害についての対策も等閑視することができない。

この問題について観点を新にして、会員各位とともに考究したいと考えている。